

【3期目に向けての抱負】

市長 今日から3期目が始まります。改めて気を引き締めて次の4年間頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次の4年間は、生駒市にとって少子高齢化に対応しながら、新しい50年のまちづくりに向けて、具体的にどんな1歩を踏み出していくのかという形を見せていかなければいけない、大変重要な時期だと思っております。単に住みやすいだけではなく、多様な暮らし方や働き方が実現し、雇用が生まれ、地域で経済が循環するような住宅都市をしっかりとつくっていきたく思っております。

また、生駒のような人と人との繋がりがまちづくりの土台にあるようなまちにおいては、コロナの影響が他の地域よりも大きかったと思っております。それを取り戻してだけでなく、コロナ禍で得ることができたICTの活用や、コミュニティの必要性への理解といったことを活かしながら、一歩踏み込んだ形でまちづくりを進めていきたい。

いろんなフラストレーションも溜まる3年間を乗り越えて、子供たちが笑顔で元気に走り回り、周りの大人たちはそれを笑顔で見守っていけるようなまちをもう一度作っていきたく思っております。何卒よろしくお願いいたします。

【質疑応答】

記者 給食費や保育費の無償化など、子育て施策について今後どうされますか。

市長 給食費の無償化については、財政状況を勘案しながらですが、今のところはまず中学生から始めて対象を拡大していきたいと考えています。幼児教育・保育の無償化については、現在3歳から5歳までは無償化していますが、0歳から2歳の第2子以降の無償化を速やかに実施し、その後対象をどう広げていくかを考えたいと思っております。国もこども家庭庁ができるなど新たな動きもあり、県とも連携することにより具体的によりスピード感を持ってできると考えています。妊婦健診についても現在一定額の支援をしていますが、これを無償化するといったことも考えていきたいです。

子育てについては、無償化の議論だけではなく、他に二つの切り口があります。一つ目は、子どもの発達や不登校の問題です。あまり表面化していないかもしれませんが、保護者の皆さんと話をしていると子どもの発達や不登校を心配されている方々が非常に多いです。発達に対する相談窓口を生駒市立病院や学校などに設けることや、支援方法についてきめ細やかに対応していきたいと考えています。

不登校については、コロナ禍以前と比べて3倍になったと言われてはいますが、既に行っている「のびのびほっとルーム」の取組などに加え、行政だけでなくいろんな場所を使った学びの場をつくっていききたいです。

その他、病児保育についても沢山のご意見をいただいています。子どもが熱を出したら30分以内に迎えに来てほしいというようなことではなく、公的な施設の中でお子さんを預かって、もう少し仕事の段取りをつけてから帰ってきてもらえるような対応も考えていきたいです。

二つ目は、子どもたちの興味や関心、得意な分野を伸ばせるような場所や機会を生駒にもっと作りたいです。これは、単なる学校部活動の地域移行という話にとどまるのではなく、スポーツ以外にも文化芸

術、科学、デジタルなどに大きな才能や関心を示しているような子どもが、それを学校だけではなく地域で伸ばせるような拠点を作り、総合的な子育て教育のまちということで、生駒市が全国をリードするぐらいのつもりでやっていきたいと思っています。

記者 新知事とは、どう関係づくりを進めていきたいですか。

市長 山下さんも知事選挙で非常に大きな得票を取られていますので、県民の山下さんに対する大きな期待があると思っています。

今回選挙ではどうしても構図的にぶつかる場所もありましたが、元生駒市長で市のことも大変よくご存知ですし、細かい政策とか事業の進め方といった部分はもちろん調整や議論が必要ですが、奈良県全体を、そして生駒市をよくしていこうという点では何ら方向性に変わりはないと思っています。

生駒市で政治家をスタートされており、今回も生駒市民の多くの支持があったことで、山下さんも生駒市に対しての思いは持っておられるはず。その部分で共通の土台があると思いますから、選挙が終わりましたので、県にもご挨拶に行き、また、丁寧にコミュニケーションを取らせていただいて、よい関係性を積み上げていきたいと思っています。

記者 選挙戦では山下さんから経常収支や住みよさランキング、人口減少などに関して厳しいツイートがありましたが、法的処置などは考えていますか。

市長 選挙期間中ではどうしても相手側を批判するようなことはありますが、経常収支の件は明らかな事実誤認でしたので、指摘をしたところツイートは取り下げられました。住みやすさランキングは指標が変わって生駒市以外の住宅都市も順位を落としていますし、人口減少についてもけいはんな新線の開通など、前市長の取組が次の市長の時の人口に影響することもあるわけです。いずれにせよ、前市長対現市長といった構図になるのはお互いのためになりませんので最低限の指摘にとどめたところです。

ただ、選挙の投票日の直前に誤った数字が出ていましたので、訂正もしていただきたく法的な手段ということも含めて強めに言及しましたが、選挙戦も終わりました。これからは市民や県民のために関係性を構築していかなければならない時期ですし、副市長時代には指導もいただいた方であり、今後は山下さんとの関係性もきちんと積み上げていきたいと思っています。

記者 最初に取り組みたいインフラ整備は何ですか。

市長 やはり一番大きなものは学研高山第2工区で、今後も個別地区での協議等をしっかりと進めていきたいと思っています。

それに関連して国道163号線のバイパス工事は、これからが正念場だと思いますので国の方にも改めてお願いにあがり、高山第2工区との連動ができるようにと考えています。

後は南生駒駅や壱分駅のバリアフリー化、東生駒駅のエレベーター設置の要望も多く聞いていますのでその辺りはやっていきたいですし、これからという意味では生駒駅南口の拠点作りを行っていきたく考えております。

記者 山下さんも選挙期間中に、辻町インターの開設を進めるよう言及されていましたが、今後どうなりますか。

市長 基本的には奈良県の事業ですが、市職員も地権者等の地元調整に尽力しているところです。今までの県のお力添えにプラス一歩踏み込んでいただければ、地権者の方の合意もきちんと取れて、相当進捗すると思います。

記者 今年度予算について、今後新たな肉付けや補正であるとか、あるいは臨時会の開催も含めて考

えていますか。

市長 今年度予算は骨格予算ではなく、ほぼ肉がついた形の予算になっていますので、新たに大きく肉をつけることは考えていません。

記者 信条にしている言葉はありますか。

市長 「卒啄同時（そくたくどうじ）」です。卵からひなが孵るときにちょうど親鳥と、ひなが殻を同時につくことで殻が割れるっていう意味です。市民と行政が同じタイミングで同じ方向を向いて力を合わせることで大きなまちづくりの成果が出てくると重ね合わせています。

後は、リクルートの社訓ですが「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」という言葉が好きです。個人的には挑戦をするのが好きなので、どんどん変わっていく世の中で何か新しいことをしないということは後退になると思っています。これからも挑戦をしていきたいし、市民の皆さんの目線できちんと地に足をつけて土台もきちんとしながら、その上に新しいこと変えていかねばならないことにしっかりと取り組んでいきます。